

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270103403		
法人名	有限会社 ぼ〜れぼ〜れ		
事業所名	民家型宅老所 ぼ〜れぼ〜れ松が枝	ユニット名	
所在地	長崎市松が枝町3番23号		
自己評価作成日	2023年 3 月 15 日	評価結果市町村受理日	2023年 4 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_topi%20syosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年 3 月 24 日	評価確定日	2023年 3 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成30年5月1日に、4階建てでリニューアルオープン致しました。外観は景観地区にふさわしいレンガ色で、会社の色で、認知症カラーでもあるオレンジの帯を入れました。ご利用者の方々の終の棲家という意識で、敢えて看板は出していない、入ると木目調の玄関ホールに手すりは柵風です。室内への出入り口は軽いふすまのような感じで、開けるとティのフロアと真ん中にキッチンがあります。建物内はほぼ畳敷きで、フローリングはクッションフロアを使用しています。1階〜4階までのトイレのドアはすべて同じ色に統一し、3階、4階の居室は、隣同士の居室はすべて違うドア色で、居間からそのまま畳が続きます。中に入ると何だかホッとする空間になるように、工夫しました。食事はすべて手作りです。毎月1日はお赤飯、季節の食材を使用し、季節ごとの、お節料理、恵方巻、お誕生日にはちらし寿司など、美味しい食事を日替わりで、栄養士と調理師が作っています。コロナ禍でご面会もままならない為に、ご家族とテレビ電話や、Zoomを使用したオンライン面会を早くに導入し、週に1度は、ご本人の動画や写真をご家族様に送り、繋がりが途切れないような支援をさせて頂いております。多職種が連携し、医療職も多いため、お着取りまで最期まで生きるをご家族様と共に、お手伝いさせて頂いております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2023年4月1日、“民家型宅老所 ぼ〜れぼ〜れ松が枝”は開設から20周年を迎える。開設以来のご利用者や家族、職員、地域の方々に支えられての20年であり、リニューアルオープン時も変わらず、玄関横に「縁側」を作り、子ども達が“おくんち”の時に「金魚すくい」ができるように設計されている。創立記念の時には代表（管理者）から職員などに「紅白饅頭」等のプレゼントが用意されている。ホームでお看取りをされる方々も多く、ご利用者と家族の尊厳を第一に考え、24時間の医療連携が密に行われている。総括責任者を含め、5人の看護師が在籍しており、日々の体調変化を細やかに観察し、介護職員と連携しながら、家族の方々と一緒に誠心誠意のケアが行われている。「最期まで生きる」ことをお手伝いされており、ご本人の持てる力を最大限に引き出せるよう、職員個々が固定概念を捨て、常に可能性の視点を持つ事で、安全に残存能力が活かせる生活の場が作られている。コロナ禍においても「暮らしを続ける」ことを大切に、2022年度はクリスマスイルミネーション、みなと祭り（花火大会）、ランタンフェスティバルにお連れし、笑顔のひと時を過ごすことができた。今後も日々行われているケアや健康状態を家族に報告し、家族との話し合いの機会を更に増やしていく予定にしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている（参考項 目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごさせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らしている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務に入った際、理念の唱和をし、その理念に沿った行動をスタッフ同士で声を掛け合いながら、実践を心掛けている。	日々、理念と毎月の目標を唱和している。長く勤務する職員も多く、入職した職員と結束し、『目配り、気配り、心配り…』等の実践に繋げている。『その人らしさを ひきだす介護』も素晴らしく、ご本人の有する能力を丁寧に分析し、医療連携を密に行いながら、チームケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	依然としてコロナ禍ではあるが、地域の行事には積極的に参加をしている。	ホームの外の電気を夜中12時まで点灯し、地域の方々の安心と防犯対策に繋げている。大浦青年会の活動も継続し、2022年度は小学校の体育館で秋祭りを行うことができた。ホームも秋祭りに出店し、ラムネ、かよかよせんべい、ヨーヨー、カレーちくわを販売し、とても好評であった。2022年度はクリスマスイルミネーション、みなと祭り（花火大会）、ランタンフェスティバルも再開し、笑顔の時間を過ごすことができた。コロナ以前は桐の木保育園の園児の慰問があり、中学生との交流も行われていた。保育園の遠足にご利用者も一緒に行き、楽しまれていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外の掲示板等を活用し、長崎らしいコロナ禍生活のリーフレットや、研修会、講演会などのチラシを掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	看取りや新しい入居者、消防防災訓練、コロナの状況等を当施設で実施している事を書面にて報告しています。また、書面にてご意見を頂き、活用させて頂いています。	書面会議になり、より詳細な取り組み内容を報告できるように努め、参加者の方々から回答を得やすいようにアンケート方式にする等の工夫をしている。コロナ禍における日々の取り組みや外出状況、研修内容、事故報告等も詳細に行い、労いのお言葉や感想を頂いている。2023年度は区民センターで開催できればと考えており、今後も運営推進会議の在り方や議題等を検討していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ関連で長崎市としての対応はどうされるのか？とかこういう時は？など、問い合わせに対して、丁寧な対応をして頂きました。	代表（管理者）や総括責任者が、市役所や地域包括との連携を深めてこられた。コロナ禍は市役所の訪問を減らし、電話やメールで情報交換しており、コロナ禍における相談をさせて頂いた際も、市の職員がマスクやガウン、手袋等を迅速に届けて下さった。総括責任者が市役所主催で開催される「地域コミュニティ会議」のメンバーになっており、空き家対策の検討も行われている。春になると「西山ダム下流公園」の桜の花見が恒例で、市役所に公園の鍵を借りて花見を楽しまれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	他施設での実例でのディスカッションや、普段の視点も身体拘束を意識した視点で、考えるようになってきている。	穏やかに過ごされている方が多く、その都度の思いを傾聴している。ご利用者と目線を合わせて手をつなぎ、スキンシップをしながらの挨拶を日々行うと共に、行動障害の原因を丁寧に把握し、根拠に基づくケア内容を検討している。コロナ禍、ご利用者にマスクを着用して頂く難しさがあり、布マスクを含めた個別の工夫を続けてこられた。近くの交番に挨拶し、もしもの時に備えて声を掛けて頂く関係も作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も身体拘束と同様に行い、スタッフ自身の言葉遣いや接遇研修にも力を入れています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解も必要だが、日々のケアの中でも、ご本人の権利、人権を大事にするようプランの中にも盛り込みながら、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を用いて、説明し、納得頂いた事を確認し契約をしています。その後も密に連絡を取り合い、ご本人・ご家族の不安・疑問を取り除けるよう努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者を、預かってもらっている、預かっている関係性ではなく、ご本人をサポートさせて頂くチームとして意見交換が出来るよう、働きかけています。	家族の方々に公的な相談窓口を紹介すると共に、認知症の人と家族の会のご紹介をしている。面会時や電話、動画等を活用し、情報交換を続けており、家族の不安や要望を受け止められるように努めている。食事量が徐々に落ちていた方がおられ、家族に食事介助をお願いしたり、ご本人とテレビ電話で会話をされる方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のカンファレンスで全職員の意見を聞く場を設け、都度個人面談の実施も行っている。	毎週のカンファレンスで月の目標を決め、評価等を丁寧に行い、更なる成果に繋げている。業務改善・福利厚生委員会やケア会議後、担当スタッフの打合せの時等にも職員の意見を聞く機会が作られている。代表（管理者）も運営状況やカンファレンス記録を確認し、総括責任者、総務担当者と共に職員の意見を大切にされており、コロナ禍における職員の頑張りを高く評価し、日々感謝の気持ちを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	電子カルテに移行した事により、時間の短縮を意識した記録時間の確保に取り組中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はオンラインでの研修への参加を促し、どういう勉強をしていきたいか、希望を受け入れながら、学べる環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市包括ケアまちなかラウンジ主催の介護職員向の研修、長崎座板kDr.ネット主催の研修。症例検討会研修会をオンラインを交え交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を把握するためにチームケアでご利用者1名に2名の担当スタッフとグループホーム担当ケアマネおよび、計画作成担当者が中心となり、本人とのコミュニケーションを密にとり、本人の意向を情報ファイルなどで共有し、ご本人が安心できるよう努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり、ご不安な点ご心配な点を対面でない分、お電話で丁寧に伺わせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍で入所のご希望が増えてきている現状もあるが、色々な選択肢をチームで検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ていることが継続できる様支援しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真・動画・ビデオ通話を行い、関係性が繋がっていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がご家族や知人・友人を認知出来なくなったとしても、関係継続は大切な事と捉え、その支援に努めている。	コロナ禍も馴染みのお祭り（ランタンフェスティバル）に参加できたり、ご本人の馴染みのスーパーが「ジョイフルサン」であることがわかり、ホーム近くの系列スーパーにお連れすることができた。兄弟の通夜にお連れすることができた方や、「訪問理美容に無い物が床屋にはある」という思いで、馴染みの床屋を利用できるよう支援できた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者数名で屋上ビアガーデンやコロナ禍で外出がままならない分、室内でも取り組める楽しみや、利用者同士の関係性の継続に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせて頂いたご家族にも、年賀状に一言を添えて送らせて頂いています。それにより年賀状のお返事を頂いたり、ご相談事がある時にご連絡を頂いたり、関係の継続性があります。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の勤務の中でその人とおしゃべりしながら、今の想いを聞き取ったり、話が出来ない人の場合は、日々感じることを情報記載したりと、スタッフ間で情報を共有して行っています。	新しいソフトやセンター方式等を活用している。家族に生活歴等を記入して頂き、介護計画を郵送時に意向を記入して頂いている。行動の背景にある思いの把握に努め、“私の気持ちシート（入居1週間）”や“気分の変化シート”も活用し、アセスメントに活かしている。ご本人と家族の思いを大切に、解決策の検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日常会話の中で、聞き取ったこととご家族からの情報と重ねながら、生活歴を知る事でその人を理解していけるよう、努めて行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間スタッフは交替するも、申し送りの中で気になるところを切れ目なく経過観察していけるよう、伝え忘れが無いようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一回のカンファレンスの中で気になるところや気づいた点を意見交換したり、情報ファイルに記録したりと、アセスメント→介護計画→評価→アセスメントに繋がっています。	チーム担当制でアセスメントを行い、全職員で話し合いをしている。新しく入居された方も「現状維持」の視点だけではなく、「普通の生活」の視点を大切にされている。座位保持、移動、トイレでの排泄、食事を含め、有する能力を丁寧に評価し、トイレでの排泄が可能になった方や、馴染みの床屋を利用できた方もおられる。「配膳」「食器拭き」「おやつ作り」「塗り絵」「レクや体操」等も日々行われ、更なる評価と計画の見直しを続けている。	今後も24時間シート（日課表）等を作成し、日々行われている全ての活動とケア内容を盛り込むと共に、家族の方々と介護計画の話し合いを密に行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテの定型文に個別のケアプランの内容を織り込み、日常生活の記録に反映されていくように工夫しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の体調やご家族の都合に合わせ、申し入れがあればいつでも対応できるように受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は散歩や外出時に地域の皆さんに見守っていただいていたのを感じていました。そのためにも地域の一員として、地域行事にも参加していました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時、受診時共に、必ずスタッフも同行し、かかりつけ医との関係性も良好なので、より適切なアドバイスを受けられています。	『長崎在宅Dr.ネット』の医師に24時間相談でき、往診も受けられる。受診時は看護師が介助し、今後も月1回は家族への報告を行う予定にしている。歯科医師の訪問診療もあり、摂食嚥下評価もして下さる。ホームでは「普通の生活」を大切にされており、日々の生活や姿勢、食事、排泄等の在り方を検証し、医療連携のもとで根拠ある検討と実践が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に介護職と看護職との連携は取れており、気づきを共有し、適切な支援へ繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者のご入院は、1年間に1件もないぐらいの頻度ではありますが、入院された時点で、早期の退院に向け、入院先の主治医や連携室担当者と顔合わせを行い、情報交換を実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	総括責任者がご家族と話をした内容や、主治医とご家族との面談内容などを、カンファレンス等で、全スタッフが共有する事で、その人らしさを全うして頂けるよう支援に取り組んでおります。	全員の方が「最期までほ～れぽ～れで…」と希望されている。ご本人の体調に応じて、総括責任者（看護師）から入院等の選択肢（メリット・デメリットを含む）を家族に説明している。ホームに5名の看護師が在籍しており、主治医、介護職員、家族と連携し、最期まで誠心誠意のケアが行われている。お看取りの後、家族の方々より「お父さん（お母さん）らしい最期だったと思います」「ほ～れぽ～れで良かったです」等のお言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にカンファレンスで勉強しながら、急変時に落ち着いて対応と報告が出来る様に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	月に一度、カンファレンス内において、利用者の避難誘導方法を確認し、居室における布団を敷く位置、頭はどちら向きなどまで、夜間の非常時に対応出来る配置にしています。避難訓練も日常的に行っています。	毎月の訓練（日中想定）と共に、消防署と日中訓練（前回は夜間想定）をしている。エレベーターが使えない状況も想定し、ホーム内の非常階段やベランダへの一次避難場所への避難が行われている。コロナ禍も事前に張り紙を作成し、職員が通行人役等を体験し、更なる課題の発見と対策に繋げている。災害に備えて食料や飲料水等を準備しており、今後も更なる保管場所を検討予定である。BCP作成のために各種マニュアルを整理しており、今後も具体化していく予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の経験や体験などから培われた人権やプライドを傷つけないように、ご本人を尊重した言葉かけや対応をするよう心掛けています。	2022年度は接遇研修や電話対応研修等も行われた。ご本人の自尊心と羞恥心等に最大限配慮し、日々の声かけに注意すると共に、「ご本人を試すような質問はしない」などを研修時に振り返り、「明日は会えない事もあるので、今を一生懸命に…」を職員と共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの「～したい」言葉で表現できない人の場合は表情や仕草から「～しましょうか？」とか言葉を掛けながら、ご本人が自己決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを元に、体調気分に合わせて、その日だけではなくその時その時も大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や髭剃りなど、個々人に合わせてその人らしい支援をご家族と共にサポートさせて頂いています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態を工夫してお出ししています。安全に食事を楽しめる様、医科歯科と連携も取りながら、食支援を行っています。	栄養士と調理師が旬の料理を作り、1日はお赤飯である。歯科医師から摂食嚥下のアドバイスを頂き、トロミをつける方もおられる。季節行事に応じた献立を作り、職員も同じ食事をされており、お正月はお餅を焼く時から見て頂き（20分～30分）、お餅を食べる思考準備を入念に行うことで安全に食べることができている。そばに吸引器を準備しているが、使用することはなかった。ご利用者も盛り付けや食器洗い、食器拭き等をして下さり、手作りのお弁当持参で桜の花見をされたり、フロアや屋上でノンアルコールビールを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医科歯科と連携し、個々に必要な栄養摂取、水分摂取量を設定しています。好みやその人に合った水分の摂取方法等を検討し、支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の定期的な訪問による専門的口腔ケアの実施と、その際のアドバイスを元に、個々に応じた衛生物品の使用し、口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄状況とその時々の様子を鑑み、トイレ誘導し、自立した排泄が出来る様に支援している。	トイレでの排泄を大切にされており、排泄パターン等を職員全員で検討している。トイレに誘導する際も、ご本人に通じるように、「はばかり」「お便所」等を使い分けるようにしている。心身状況を丁寧にアセスメントし、前方のバーを持って頂き、座位をすることで、次第に座位バランスが良くなり、自然排尿・排便に繋がっている方もおられる。ご本人の排泄サインを丁寧に観察し、失禁を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスのとれた食事や水分摂取を気掛け規則正しい生活が送れる様、支援しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者に合った入浴方法、時間帯やその日の体調に合わせた支援を行っている。	入浴習慣(湯温等)を把握し、希望に応じると共に、体調等を考慮して入浴時間を調整している。体調に応じてリフトを使用する方もおられ、湯船に浸かり、楽しい会話をされたり、職員が持参する柚子湯や菖蒲湯を楽しまれている。入浴時は皮膚の状態等を丁寧に確認し、記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の睡眠のリズムに合わせ、安眠できる様に、リラックして日中も過ごせる様、日中の休息時間や、就寝時のナイトケア、就寝中のトイレ誘導のタイミング等、気掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	総括責任者と薬担当スタッフと薬局薬剤師と、全職員が薬の変更や増減等に関して、情報を共有する事で、服薬の変更による症状の変化の早期評価に繋がっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の好きな事、興味のあることの把握をしてそのことに取り組めるよう、努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この3年コロナ禍により、外出の機会はあるみる減りましたが、1対1だったり、人込みを避けてだったり等工夫を致しました。	毎年恒例の“初日の出”を拝むことができ、公園に散歩に行かれたり、買い物、季節の花見(分散花見)に行かれている。 2022年度に再開したクリスマスイルミネーション、みなと祭り(花火大会)、ランタンフェスティバルにお連れすることもでき、楽しいひと時となった。コロナ以前は多々の地域行事に参加し、平和祈念式典、大浦諏訪神社での子供の日の餅つき、回転寿司等にお連れしており、家族も一緒に楽しんでいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に不安が生じないよう、金銭管理について配慮しております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らが希望されるのはなかなか難しいですが、ご家族との電話や、テレビ電話などで、やり取りが出来る様、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる様な飾りつけと、室内の温度湿度調整、特に換気（2方向）には、気掛けました。その際も、過ごしやすい様な、ひざ掛け等で、配慮致しました。	コロナ対策を続けてこれ、エアドック・ジアイーノ等の空気清浄機を各フロアに設置している。弱次亜塩素酸水の散布できる加湿器、CO2測定器等も活用し、数値に基づいた対応を続けている。1階のリビングは認知症デイの方との団欒の場であるが、密は避けるように配慮している。屋上もあり、一緒に洗濯物を干したり、日向ぼっこをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々人の性格に気が合いそうな利用者同士で一緒に過ごしたり、又、聴覚が敏感な方には、静かな空間を提供したり等の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具などは、ご本人とご家族の方に、決めて頂き利用してもらっています。居心地のいい空間になるよう、整理整頓にも配慮しています。	居室は3階と4階にあり、居室から畳のフロア、トイレは段差がなく、歩行が難しい方々もご自分の両手と両膝を使って自由に移動できる環境が作られている。ベッドを利用する方は2人で、他の方々は床に布団を敷いており、夜間の避難に備えて入り口側に頭が来るようにしている。愛用の筆筒や置時計、座椅子、寝具（枕）、髭剃り等を持ちこまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人も持てる力を最大限に引き出せるよう、私たちスタッフが固定概念を捨て、常に可能性の視点を持つ事で、安全に残存能力が活かせる生活の場を意識しています。		